
経済学部 岩崎徹教授がJRA賞馬事文化賞を受賞

経済学部 岩崎徹教授が、日本中央競馬会（JRA）が主催する「2006年度JRA賞馬事文化賞」を受賞しました。受賞作は、『馬産地80話 日高から見た日本競馬』。この賞は、日本中央競馬会が当該年度において文学・評論・美術・映画・音楽等を通じて馬事文化の発展に顕著な功績のあった者（団体を含む）に授与する文化賞です。

岩崎教授は、戦後日本農政史、北海道農業、競走馬生産の研究を専門とし、主著に『競馬社会をみると、日本経済がみえてくる—国際化と馬産地の課題』『新たな時代の軽種馬の課題』など競走馬生産について学術的な研究を行っています。中央畜産会、日本軽種馬協会、日本中央競馬会の専門委員・調査委員、北海道地方競馬運営委員長等を歴任してきました。授業では「農業経済論」を担当し、農業問題の理論や歴史、日本と世界の農業問題の実態を中心に講義を行っています。

文化学部 高宮広土教授が沖縄研究奨励賞を受賞

文化学部 高宮広土教授が、財団法人沖縄協会が主催する「平成18年度沖縄研究奨励賞」を受賞しました。受賞部門は人文科学部門で、受賞テーマは「沖縄諸島先史時代におけるヒトの適応過程の解明」。この賞は、沖縄を対象とした優れた研究を行っている新進研究者（又はグループ）に授与される賞です。

高宮教授は、沖縄県の出身で、主著に『島の先史学 パラダイスではなかった沖縄の先史時代』、学術論文に『先史時代の沖縄本島におけるヒトの適応過程』『ヒトの行動からみた沖縄の先史時代』など、沖縄の考古学を専門としています。授業で担当する「先史研究Ⅱ」では、ヒトの起源と進化に関して最新のデータを提供し、ヒト（およびヒトの祖先）が歩んだ道について講義を行っています。